



高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740(32)4156
<http://takashima-tojukai.com/>

「藤樹先生が 結んでくださったご縁」

高島藤樹会理事 木村 健治



藤樹先生の
思想について
は、浅学菲才
で学習のため、
私が高島
藤樹会へ入会

させて頂くこととなったご縁について記させて頂く。

「致知」という雑誌はご存じの方も多いと思うが、私は二〇一七年九月に京都で開催された同誌の「愛読者の集い」へ参加した。その懇親会・会場にて、来賓として紹介された中江彰氏を知り、同郷ということであつたところ、高島から参加されている他の方々を紹介くださった。

この出会いから、「西びわこ藤樹木鶏クラブ」(高島の愛読者会)の例会へ参加させていただくこととなり、高島藤樹会の前会長・川越清司氏との嬉しいご縁ができた。そして、さらにここから「本会」ならびに「掃除に学ぶ会」、「実践人の家」等への入会へと導かれた。

また、二〇一九年に東京で開催された「致知」愛読者の集いには、鎌

倉円覚寺の横田南嶺老師や大峰山千日回峰行で有名な塩沼亮潤・大阿闍梨にお会いしたいという一心で参加。「近江の国は中江藤樹先生・生誕の里である高島市から参りました」と自己紹介のフレーズを駆使した。全国の方は、この藤樹先生の里という言葉に、興味や親近感を覚え、くださるようになる。

北海道旅行の折には、札幌・時計台のガイドの方に、「内村鑑三先生が『代表的日本人』で海外に紹介された中江藤樹先生の里から参りました」と話しかけると、彼は「滋賀の湖西地方へは何度か行きました。とても良いところですよ」と、たちまち旧知の間柄のような気分になった。これも藤樹先生が結んでくださったご縁である。

四十三年間金融機関に勤務し、組織が求める諸計数目標の達成のために精励勤務してきたが、還暦を迎えた年に、新しいことにチャレンジするきっかけとなった。この思いもあり、愛読者の集いに参加した。この一歩を踏み出す勇氣を持てたことが、人生の大きな転機になったと実感している。

高島藤樹会での学びからは、医師を目指す大野了佐への藤樹先生の献身的な指導(医学を学ぶための教科

書を彼一人のために作成された)を思う時、身近な一人の人間のためにここまで精魂を尽くせるのかと自問自答した。このことが職場で身近にいる若手の営業マン達をいかにして励まそうかという動機となり、ラインでの「一日一言グループ」結成へとつながった。ご縁ある人達へ日々励ましの言葉を発信している。

また、藤樹先生の里であるにもかかわらず安曇川駅前が雑草で見苦しい時期があつたことから、令和元年一〇月に「高島市を美しくする会」を結成。主に高島市内の駅前清掃を実施している。日々の生活で曇りがちな良知を、この清掃活動によって磨き明るくすることができ。掃除の効用であり、「知行合一」の実践でもあります。先日はある会員から、「早く掃除がしたくてうずうずしています」とのうれしい便りがあつた。最後に、現会長の田中清行先生の「藤樹人間学塾」では、令和四年二月から「鑑草」の学習が始まった。三月は、「嫁と姑」という永遠の難題について、多くの学びがあつた。ぜひ皆さまもご参加ください。

